

税に寄り添う私たちの未来

南部町立南部中学校3年 依田 紗采

「税」とは、国や自治体が行政に必要な経費として住民や法人から取り立てるお金のことである。

中学三年にもなって、社会の色んなことに目がいくようになった。七月頃、授業で租税について詳しく学んだ時があった。税の使い道などまったく知らなかった私は話を聞いてとても驚いた。授業の中では、もし税金がなかった時の視点で人々の生活を考えてみた。すると「道路の整備ができていない」「街中がゴミだらけ」「医療が受けれない」など。私たちが生きている現代社会において比べものにならないほど、世の中がおそろしかった。税金を払っている理由。それは私たち、そして国のためにあるものだと実感した瞬間だった。

授業が終わった後も私はもっと税のことを知りたいという興味があった。

まずは、税との関わりをもう一度詳しく知るところから始めた。調べてみると、「学校、公園、警察、消防」などがあつた。日常生活において深く関わりのあるものがあり、大切にしなければならないと感じた。

次は、令和二年度の一般会計予算について調べた。当初の予算は、約百〇二兆七千億円だった。社会保障がトップで全体の三分の一を占めていた。

その他として、私は去年とは違うことと税を結びつけた。今、現在も感染者が多くなっている新型コロナウイルス感染症。この影響で亡くなってしまった人たちも多かった。その中でも、政府が各家庭に給付金を配った。この給付金も今までの私たちが払っていた税からできている。両親は、感謝していたが私は感謝とともにこれからの未来が心配になった。この給付金を全国に配布したことにより今後私のようなまだ若い人たちが多大なお金を払っていくことになるのだ。現在、消費税十パーセントだがこれから十パーセント以上の世の中になっていくかもしれない。私たちの暮らしのためにある税金だがこれからの重要な問題になっていくと思った。

しかし、税金は納めることによって私たちの暮らしをよりよくしていることは変わらない。

税金は、私たちの暮らしを支えているが国民全体で負担しなければならない。国が一丸となり私自身も、もっと税金の使い道を監視していく必要がある。